

小学校 社会

重点1 単元を貫く「問い」を基軸とし、単元を構成する。

- 単元で児童に身に付けさせたい力を明確にし、児童のゴールの姿をしっかりとイメージしている。
- 単元を通して最終的に獲得させたい知識（中心概念）を明確にし、取り上げる社会的事象を吟味するとともに、具体的知識を整理し、児童の思考の流れに沿った問いを設定している。

【ポイント：知識と問いの構造図について】

単元全体の指導計画を立てる上で、単元全体の知識と問いの構造図をつくることは有効です。※中学校でも有効です。



重点2 「主体的・対話的で深い学び」につながる指導と評価を考える。

- 単元の導入において、社会的事象から児童が問題を発見し、単元全体の学習への見通しをもてるようにしている。そして、学習過程に沿って自身の学習状況を確認したり、次の学習や生活に生かそうとしたりしているかを評価している。(主体的に学習に取り組む態度)
- 児童から生まれる問いや問題意識を大切にするとともに、目的を明確にした話し合い活動等を取り入れながら、導入からまとめまでの問題意識の流れを踏まえた指導を行っている。そして、追究過程に沿って、社会的事象に着目し、問いを見だし、社会的事象の様子について考え表現しているか、また、比較・関連付け、総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているかを評価している。(思考・判断・表現)
- 児童の追究意欲を喚起・持続するような資料の精選や授業の組立を工夫している。そして、児童が資料から必要な情報を集めて読み取り社会的事象の様子を具体的に理解したり、調べまとめたことを基に考え、社会的事象の特色や意味などを理解したりしているかを評価している。(知識・技能)

【ポイント】

「社会的な見方・考え方」は、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法であると考えられます。

※学習指導案や「単元の振り返りシート」の例が以下のWebサイト(EIOS)に掲載されていますので参考にしてください。
(EIOS > 授業づくり > 小学校または中学校 > 社会)

【小学校】

<http://eio-shimane.jp/class-making/elementary-school/el-Social/>



【中学校】

<http://eio-shimane.jp/class-making/junior-high-school/jr-Social/>



中学校 社会

重点1 単元を貫く「問い」を基軸とし、単元を構成する。

- 単元で生徒に身に付けさせたい力を明確にし、生徒のゴールの姿をしっかりとイメージしている。
- 単元を通して最終的に獲得させたい知識（概念的知識）を明確にし、取り上げる社会的事象を吟味するとともに、具体的知識を整理し、生徒の思考の流れに沿った問いを設定している。

【ポイント】

育成を目指す資質・能力を明確にした上で、「単元を貫く問い」を中心に、「知識と問いの構造図」(「小学校社会」の重点1)や単元の指導計画を作成しましょう。

重点2 「主体的・対話的で深い学び」につながる指導と評価を考える。

- 「単元を貫く問い」に対して、生徒が予想を立てたり、課題解決に必要なことを考えたりして、単元の学習に見通しがもてるようにしている。また、単元末では、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価している。(主体的に学習に取り組む態度)

「単元の振り返りシート」(※)を活用することで、生徒が学習を見通したり、振り返ったりしやすくなり、教師も単元全体の生徒の学習状況を見取ることができます。

- 「単元を貫く問い」を生徒が追究する過程で、「社会的な見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察・構想し、表現できるようにしている。その際、レポート作成、発表、話し合い、作品制作等の多様な活動を取り入れたりするなど、評価方法を工夫している。(思考・判断・表現)

「社会的な見方・考え方」は、とりわけ「思考力、判断力、表現力」の育成に重要な役割を果たします。評価規準は、生徒に着目させる具体的な「視点」や、比較や関連付け等の「方法」を組み込んで設定してみましょう。
○『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料に事例が掲載されていますので、参考にしてください。

- 生徒が、資料を収集・選択し、そこから情報を読み取ることで考察や理解につながるように、資料の精選や授業の組立を工夫している。また、個別の事象などの知識のみに留まらず、それらを関連付けて、社会的事象等の特色や意味、理論といった概念的知識を獲得しているかを評価している。(知識・技能)

【ポイント】

「社会的な見方・考え方」を働かせる鍵となるのが、問いです。社会的事象の特色や意義などを考えさせる問いや、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断するための問いを、単元のどこにどのように位置付けるのかを考えることが大切です。

高等学校 地理歴史、公民

重点1 単元を貫く「問い」を基軸とし、単元を構成する。

- 単元で生徒に身に付けさせたい力を明確にし、生徒のゴールの姿をしっかりとイメージしている。
- 単元を通して最終的に獲得させたい知識（概念的知識）を明確にし、取り上げる社会的事象を吟味するとともに、具体的知識を整理し、生徒の思考の流れに沿った問いを設定している。

【ポイント】

学習指導要領を踏まえ、育成を目指す資質・能力等を明確にした上で、単元を貫く「問い」を中心に単元の指導計画を作成しましょう。

単元を貫く「問い」

- ・事象の理解を深める核となる学習内容をもつ、鍵となる概念をもつ「問い」。
- ・深い思考や新しい理解を促し、考察が持続する、学ぶ価値のある「問い」。
- ・特定の時代や地域を越えた比較や関連付けが可能となる、転移を促す「問い」。

重点2 「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりをする。

- 生徒が学習の見通しをもつことができるように、学習課題を明示し、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定して、生徒の表現を促すようにしている。
- 「社会的な見方・考え方」を働かせることで、生徒自身が社会的事象を多面的・多角的に考察し表現することができるような課題を設定し、追究したり解決したりする学習場面を設定している。

【ポイント】

「社会的な見方・考え方」を働かせることは、本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力、表現力の育成はもとより、生きて働く知識の習得にも不可欠であると考えられます。「小学校社会」「中学校社会」の重点2【ポイント】も参照

重点3 指導と評価の一体化を意識する。

- 学習指導要領に示された目標及び内容を踏まえて、単元の評価規準を作成している。
- 学習結果を見取る評価(総括的評価)だけではなく、学習過程を見取る評価(形成的評価)にも留意し、指導と評価の一体化を図っている。
- 評価の方法を工夫している。例えばペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図ること等が考えられる。また、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。

【ポイント】

指導と評価は別物ではなく、評価の結果によってその後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要です。

小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力(目指す子どもの姿)

◎基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得している。

(例)・国土や地域の地理的環境、日本及び世界の歴史の展開、現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。

◎「社会的な見方・考え方」を働かせ、深い学びによって思考・判断したことを適切に表現する力を身に付けている。

(例)・社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断する力、思考・判断したことを適切に表現する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら議論する力を身に付けている。

◎主権者として、課題を主体的に解決しようとする態度を身に付け、人間としての在り方生き方や他国を尊重することの大切さを自覚している。

(例)・公共的な事柄に参画していこうとする態度、自立的な消費者として持続可能な社会の形成に積極的に関与しようとする態度を身に付けている。
・グローバル化する国際社会の中で、各国が相互に主権を尊重し、国民が協力し合うことの大切さについて自覚している。

研修等について

○小・中学校社会科教育講座

9月20日(水) 島根県教育センター

※令和5年度の受講対象は中学校・義務教育学校後期課程及び特別支援学校(中学部)の教員

○新学習指導要領実施のための高等学校地理歴史科・公民科授業改善研修

10月24日(火) 島根県教育センター

※高等学校のすべての地理歴史科、公民科の教諭・主幹教諭、及び常勤講師(令和3年度～令和5年度の3カ年で実施)

小中高学校ともに、情報の収集、処理や発表などにあたっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、児童生徒が主体的に調べ分かつようとして学習に取り組めるようしましょう。その際は、課題の追究や解決の見通しをもって児童生徒が主体的に情報手段を活用できるようにすることが大切です。

文部科学省Webページ「StuDX Style」各教科での活用(社会科、地理歴史科、公民科)
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00004.html

